



本校の子どもたちの家庭における生活・学習習慣は？ ～全国学力・学習状況調査における児童質問紙調査から～

浜中町立茶内小学校長 富田直樹

前号では、本校の子どもたちに、どんな資質・能力が育まれているのかについて、全国学力・学習状況調査の児童質問紙調査の結果から確認しました。本号では、子どもたちの家庭における生活・学習習慣について、同じく児童質問紙調査の結果から皆さんと共有したいと考えます。

質問事項についての本校児童の回答の状況及び全国平均との比較	
1	朝食を毎日食べている児童の割合は100%であり、全国平均より5.5ポイント高い。
2	毎日、同じぐらいの時刻に寝ている児童の割合は83.3%であり、全国平均より1.8ポイント高い。
3	毎日、同じぐらいの時刻に起きている児童の割合は94.4%であり、全国平均より4.0ポイント高い。
4	携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている児童の割合は77.8%であり、全国平均より10.9ポイント高い。
5	普段（月曜日から金曜日）、2時間以上、テレビゲームをしている児童の割合は61.1%であり、全国平均より10.9ポイント高い。
6	普段（月曜日から金曜日）、2時間以上、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などを行っている児童の割合は33.3%であり、全国平均より0.8ポイント高い。
7	家で自分で計画を立てて勉強をしている児童の割合は88.9%であり、全国平均より17.8ポイント高い。
8	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1時間以上、勉強している児童の割合は88.9%であり、全国平均より29.5ポイント高い。
9	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1時間以上、勉強している児童の割合は88.9%であり、全国平均より32.8ポイント高い。
10	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、30分以上、読書している児童の割合は33.4%であり、全国平均より3.0ポイント低い。
11	家にある本の数が100冊以下であると回答した児童の割合は77.8%であり、全国平均より13.7ポイント高い。
12	新聞を週に1～3回程度以上読んでいる児童の割合は0.0%であり、全国平均より13.8ポイント低い。
13	読書が好きな児童の割合は66.6%であり、全国平均より6.5ポイント低い。

※課題と考えられる項目は網掛け

上記の結果から、本校の子どもたちは、家庭における基本的な生活習慣や学習習慣をある程度確立していることが分かります。特に、自分で計画を立てて勉強すること、平日、休日とも1時間以上勉強することは、まさに学習に対する「自己調整力」が身に付いていることの証です。一方で、テレビゲームやSNS等の視聴、読書の時間に課題が見られます。特に、新聞については、「全く読まない」と回答した児童の割合は約8割です。溢れる情報を取捨選択できる力、社会の状況を把握する力などを子どもたち自身が当事者意識をもっていかに育むのか。具体策を講じていく必要があると考えます。